

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム
(第1回)議事次第

1. 日 時 平成27年11月12日(木) 10:00～12:00
2. 場 所 文部科学省 東館3階 講堂
3. 議 題 (1) 高等学校の地理歴史科及び公民科に置く新科目の内容構成の考え方について
(2) その他
4. 配付資料
 - 資料1 教育課程部会高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム 委員名簿
 - 資料2 初等中等教育分科会教育課程部会運営規則
 - 資料3 学習指導要領等について
 - 資料4 教育課程企画特別部会 論点整理(冊子)
 - 資料5 学校段階等別部会及び教科等別ワーキンググループ等の設置について
 - 資料6 次期学習指導要領改訂に関する今後のスケジュール(予定)
 - 資料7 - 1 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(平成20年1月17日中央教育審議会答申)(抜粋)
 - 資料7 - 2 高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)地理歴史科、公民科の科目構成について
 - 資料8 - 1 高等学校における教科・科目の現状・課題と今後の在り方について(検討素案)歴史教育、地理教育、公民教育関連部分(平成27年5月25日教育課程企画特別部会配布資料)(抜粋)
 - 資料8 - 2 教育課程企画特別部会 論点整理(抜粋)
 - 資料9 - 1 教育課程部会高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項
 - 資料9 - 2 「歴史総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)
 - 資料9 - 3 「地理総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)
 - 資料9 - 4 授業実践事例集～地理総合(仮称)～
 - 資料9 - 5 「公共(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項

1. 高等学校の地理歴史科、公民科に置く新科目の内容の検討について

(1) 「歴史総合（仮称）」

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか

歴史の転換等を捉えた学習の在り方

- ・歴史の転換期の軸
- ・学習対象となる時代

日本と世界の動きの関連付け

(2) 「地理総合（仮称）」

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか

地理教育に求められる今日的要請への対応

(3) 「公共（仮称）」

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか

- ・様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論

公民教育に求められる今日的課題への対応

2. 高等学校地理歴史科、公民科に置く科目間の関係の整理（高等学校における各科目の標準単位数を含む）について

(1) 「歴史総合」と「地理総合」の地理歴史科としてのまとめ

(2) 新設する科目（「歴史総合」「地理総合」「公共」）について、高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計（高大接続の観点を含む）

3. 小・中学校社会科等と高等学校地理歴史科、公民科との内容の系統性について

(1) 小学校社会科・中学校社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）と高等学校の関係教科・科目の内容の系統性

4. その他

(1) 適切な指導がなされるための要件（周知・広報、研修等）

「歴史総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか〔歴史の考察を促す概念の例:「継続と変化」「原因と結果」「類似と差異」等〕

歴史の転換等を捉えた学習の在り方〔転換期の軸の例:近代化～大衆化～グローバル化等、
学習対象となる時代〕

日本と世界の動きの関連付け〔世界における日本の位置付け〕

「地理総合(仮称)」との関係〔グローバルな時・空間認識の育成、地理歴史科としてのまとめ〕

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(歴史的分野)の学習との関係

その他、適切な指導がなされるための要件〔周知・広報、研修等〕

【参考】 現行高等学校学習指導要領解説における近現代の始まり

	近 代	現 代
世界史	18世紀後半(諸革命～)	19世紀後期(帝国主義と社会の変容～)
日本史	19世紀後半(開国前後～)	20世紀半ば(第2次世界大戦後～)

高等学校 歴史科目の今後の在り方について（検討素案）

現行歴史系A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

世界史や日本史の学習は大切だと考える生徒は増加。一方、近現代の学習の定着状況が、他の指導内容に比べて低い傾向。

世界史か日本史かの二者択一ではなく、グローバルな視野で現代世界とそこでの日本の過去と現在、未来を考える歴史認識を培うことが必要との指摘。

調べたことを発表させる活動や課題解決的な学習を取り入れた授業等が十分に行われていない。

自国のこと、グローバルなことを、横断的・相互的にとらえる力

現代社会の形成過程を理解し、その諸課題を考察する力

世界史必修から、我が国の伝統と向かい合い、今を知るための歴史科目の新設へ

持続可能な社会作りに参画する態度

国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚

自国のこと、グローバルなことが影響しあったり、つながったりする歴史の諸相を学ぶ科目「歴史総合」(仮称)

日本の動向と世界の動きを関連付けて捉える。
現代的な諸課題を歴史的に考察するため、近現代における、歴史の転換等を捉えた学習を中心とする

歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、歴史の考察を促す概念を重視する

歴史の中に「問い」を見出し、資料に基づいて考察し、互いの考えを交流するなど、歴史の学び方を身に付ける

< 参考 >

現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。
(各時代の特色を捉える学習他)

「地理総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか

(現行学習指導要領においては、「地理的な見方や考え方」を提示)

地理教育に求められる今日的要請への対応 (例: GIS、ESD、グローバル化、防災等)

「歴史総合(仮称)」との関係 (グローバルな時・空間認識の育成, 地理歴史科としてのまとめ)

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(地理的分野)の学習との関係

その他, 適切な指導がなされるための要件(周知・広報、研修等)

高等学校 地理科目の今後の在り方について（検討素案）

現行地理A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

①地理は選択必修で、選択者も世界史、日本史に比べて少ないことから、最低限の地理的技能をもたず高校を卒業する者が多い。

地球環境の危機や防災に関する教育の必要性、地理的思考力や地理情報システム(GIS)などを活用できるスキルの育成等が重要であるとの指摘。

観察や調査・見学、体験を取り入れた授業等が十分に行われていない。

地理的な技能
「実践的な社会的スキルとしてのGIS活用」

地理的知識と地理的理解
「地球規模(グローバル)の自然システム、社会・経済システムの知識と理解」

新科目を通じて育成する資質・能力

地理的な見方や考え方
「空間概念を捉える力」

態度と価値観
「地域、国家的及び国際的な課題解決を模索する献身的努力」

(「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」)

持続可能な社会づくりに必須となる地球規模の諸課題や、地域課題を解決する力を育む科目「地理総合」(仮称)

地図や地理情報システムなどの汎用的な地理的技能の育成

位置と分布、場所、地域などの概念を捉える地理的な見方や考え方の育成

グローバルな視点からの地域理解と課題解決的な学習の展開

持続可能な社会づくりに関わる資質・能力を育み、以降の地理学習等の基盤を形成

< 参考 >

- ・ 中学校の地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・ 本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

【参考】 現行学習指導要領解説に示された「地理的な見方や考え方」

どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。

また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。

そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。

そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか、諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究し、とらえること。

そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ、考えること。

そのような地理的事象はその地域でいつごろからみられたのか、これから先もみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること。

【参考】 地理教育国際憲章で示された「地理学研究の中心的概念」

- ・ 1992年に、組織内の地理教育委員会（CGE）で起草され、国際地理学連合（IGU）として制定された地理教育振興のためのガイドライン。
- ・ この中で、地理学研究の中心的概念を「位置と分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」と規定。

「公共(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか

〔例:様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する力〕

公民教育に求められる今日的課題への対応

〔例:情報、防災、自立した生活を営む主体、社会保障、契約、財政と税、雇用・労働、インターンシップの準備と振り返り、政治参加、法、金融等〕

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(公民的分野)の学習との関係

その他、適切な指導がなされるための要件(周知・広報、研修等)

高等学校学習指導要領(平成21年3月) 現代社会(抄)

現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる

高等学校 公民科目の今後の在り方について（検討素案）

課題

資質・能力

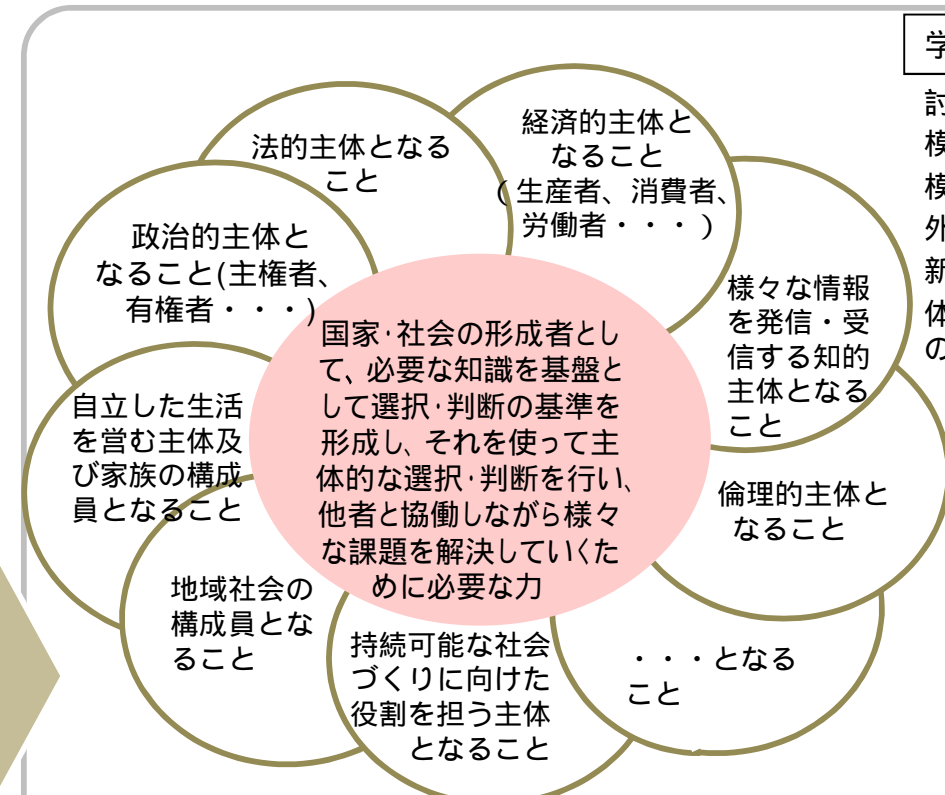
（新科目「公共」（仮称）のイメージ）

学習活動の例

討論、ディベート
 模擬選挙、模擬投票
 模擬裁判
 外部の専門家の講演
 新聞を題材にした学習
 体験活動、インターンシップ
 の準備と振り返り …

関係する 専門家・機関

弁護士
 選挙管理委員会
 消費者センター
 報道機関
 留学生
 企業 経済団体
 起業家
 NPO、NGO …



立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい課題解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力
 課題解決のための論理的な思考

様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する力

新科目を通じて 育成する資質・能力

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

「公共」の扉（なぜ「公共」を学ぶのか）<仮>

社会的・職業的な自立や社会参画に向けた意識 社会と個人との関わりについての倫理思想 アイデンティティー 自己実現 …

様々な主体としての私たちの生き方<仮>

社会保障(年金、健康保険等) 情報 消費行動 契約 財政と納税 雇用 政治参加(選挙等) 家族(制度的側面など) 自由・権利 責任・義務 …

持続可能な社会づくりの主体としての私たち<仮>

文化と宗教の多様性 国際平和 社会的な課題発見・解決に向けた探究 …

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

現代社会の諸課題等についての理論や概念の理解、情報活用能力、自己の生き方等に結びつけて考えることに課題

課題解決的な学習が十分に行われていない

キャリア教育の中核となる時間の設定

新科目の構成においては、現行の関連する科目だけでなく、各教科・科目等との連携・役割分担を念頭に置きながら検討。具体的なスキル・リテラシーとしてどのような力を、どのような学習活動を通じて育むかという議論も必要。

<参考>

・学校における道德教育は、…人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科の属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。（「高等学校学習指導要領総則第1款 教育課程編成の一般方針」）